



2017.10.5

No. 285

MONTHLY

れんごう

北海道

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者 杉山 元

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 はくろうビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

経済の域内循環の“質”を高める信頼関係の構築を 地域活性化フォーラム in 道南を開催

連合北海道が主催し、連合北海道渡島地域協議会、同松山地域協議会が共催する「地域活性化フォーラム in 道南」が9月14日、函館市・函館アリーナで開催された。平日の夕方にもかかわらず、渡島、松山両地協の尽力で、会場を埋め尽くす374人が両地域をはじめ全道各地から来場。「道南の光と影—活性化のキーワードは連携—」をテーマに講演とパネルディスカッションが行われた。

主催者の連合北海道出村会長は、地域で労働力不足が顕著になっていることや、経済状況によって結婚や出産を躊躇する若者の現状に触れ、「人口減少、超少子高齢化社会のなかで、暮らしやすい社会と地場・中小企業において働きやすい職場をつくっていくことが必要だ」とし、フォーラム開催のお礼と議論への期待を述べた。また、現在、市議会開会中で出席が叶わなかった工藤函館市長からは「道南地域の活性化に資するフォーラムとなることを祈念している」との歓迎メッセージが寄せられた。

基調講演は、公立はこだて未来大学田柳教授(社会連携センター長)から「世代間の信頼関係の構築」、連合逢見事務局長から「街のにぎわい、人とのつながり」と題して実施。田柳教授は「いま『地方創生』が必要なのは、政府の地方分権政策や中小企業政策の遅れが背景にある」と鋭く指摘。また、若者との世代間ギャップ、若者の消費意欲の減退などについて説明、「経済の域内循環の“質”を高めるためには、経済力の本質である信頼関係(交換力)が必要。そのために、若者とは生きている(く)時代が違うことを真剣に考え、共感や協働や参加などのコミュニケーションを図らないといけない」と述べた。逢見事務局長は高校まで育った函館・道南の思い出と愛着を語りながら、その歴史にも触れ「魅力のある街だ」と話した。また、各地の地域活性化の事例を挙げながら、「人口の社会減を食い止める、働く人や子どもが集まってこられる街にすることが課題になっている。地域間競争のなかで生き残っていくことをみんなが知恵を絞って考えているという時代になってきたのだろうと思う」と語った。

パネルディスカッションは、北海道新聞社函館支社の伊藤支社長をコーディネーターとして、函館商工会議所中小企業相談所の永澤所長、JTBC北海道函館支店の岩山



支店長、田柳教授、逢見事務局長の4人をパネラーに実施。冒頭の問題提起として、岩山支店長は交流人口の拡大を訴え、「津軽海峡エリアなど函館から日帰り圏内にまだある魅力的な観光素材、エリアをもっとPRし、観光客の連泊やリピーターを増やせるのではないかと話した。永澤所長は道南・函館の人口・経済分析結果と課題を説明するとともに、「本州と比較し北海道は地域の相互扶助が薄い」とし、「地元で暮らすことの大事さを親世代がバトンタッチしていくことが必要」と述べた。

「道南の光と影」をテーマにした議論で田柳教授は、「ITやAIの進展が地域経済を活性化させる可能性がある」とし、はこだて未来大学や函館市などの取り組みでIT関連企業が東京や大阪から函館へ拠点進出している状況とそれに伴う雇用創出について紹介した。また、大学の卒業生や函館出身者が地元へ回帰を希望している状況もあり、「こうしたことをムーブメントにできないかと考えている」と語った。永澤所長は、北海道新幹線の開業で405億円もの波及効果があり、観光産業の市内調達率も高いが、人口の社会減が続いていることなどを指摘。関連する地元企業の仕事をさらに増やすことが必要であること、域外から収益を得られる基盤産業の「稼ぐ力」を強めること、1人あたりの雇用者所得順位が低い状況を「伸びしろがある」と考えて、収益率、生産性向上に取り組む必要性を説いた。岩山支店長は、観光のアクセス数が増えており、今後も交通の利便性や宿泊施設・客室数の増加が見込まれているとしつつ、人材不足、冬場オフシーズンの業績落ち込みと

それに伴う不安定雇用、函館市内観光地と周辺エリアとの格差を課題として挙げた。

「活性化のキーワードは連携」がテーマの議論で岩山支店長は、観光は津軽海峡エリアなど広域地域の連携による諸外国へのアピール、有効なインスタグラムなどを活用する若者との連携による効果的プロモーション、函館・道南で行われている様々なプロジェクトをまとめて見られるような仕組み、市民一人ひとりが地域の魅力を実感して観光客にPRしていくことの必要性を説いた。永澤所長は「地域に暮らす一人ひとり、産学官金労言に関係するみんなが30年50年後の函館をどうするかを中心に考えていけば、もっといい街になるはず」と述べた。逢見事務局長も、産学官連携に加え、労働、金融、言論(マスコミ)との連携の必要性を挙げ、労働者が賃金や長時間労働、子育て環境などの処遇改善に向けて発信し、「一緒になって付加価値を上げていくことに知恵を絞り、雇用の質を上げなければならない」とした。田柳教授は「連携は簡単ではない。大学と付き合える企業は世界的にOECDデータでも3%で、技術シーズの恩



恵は大企業に行く。地域に大学と付き合える経営力を持った企業が必要だが、日本はそうになってない」と強く指摘するとともに、「連携やネットワークは、利害が違う人達が互いに敬意を払い、利害を調整すること。それを賢くやり遂げることが必要」と述べた。さらに「機械やものづくりと違い、IT・情報系は投資コストが安く、自営業でも産学連携できるようになっていく。それが強みになれば良い」と語った。

〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3226>

アジア・アフリカ支援米「第4回収穫祭」開催 食料不足のマリ共和国などに思い馳せつつ稲刈り

連合北海道と食・みどり・水を守る道民の会は9月23日、アジア・アフリカ支援米「第4回収穫祭」を空知管内由仁町の藤田農場において開催し、組合員とその家族など49名が参加した。

アジア・アフリカ支援米の取り組みは、これまで食料不足に苦しむマリ共和国などに対し、支援米作付けや茶碗一杯のコメ・カンパ活動などによって進めてきたが、それに加え、食料の重要性や農業体験を通して農業促進の必要性などを感じ取ってもらおうと「稲刈り」体験を実施している。

開会式では主催者を代表して、道民の会齋藤教一副会長が挨拶にたち「今回収穫した米は、責任をもってマリに送らせてもらう。皆さんも飢餓に苦しむ人達に思いを馳せながら、頑張って収穫作業をしてほしい」と述べた。

参加者は、協力農家の藤田佳丈さんより作業内容などについて説明を受けた後、自分達が植えた稲を手作業で



一株ずつ刈り取っていった。その後、藤田さんが用意してくれた新米のおにぎりなどを囲みながら、懇親を深めた。

この日収穫した支援米は、来年2月にマリに送る予定となっている。

〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3240>

「2017平和行動 in 根室」開催 北方領土返還求め全国から千名超える仲間が結集

日本固有の領土である北方四島が、旧ソビエト連邦によって不法占拠されてから72年が経過する中、連合は9月9日、10日の2日間にわたり「2017平和行動 in 根室」を開催した。

1日目は、北方四島交流センターにおいて「北方四島学習会」が開催され、約700名が参加した。学習会では前段に映画「ジョバンニの島」が上映され、映画を通して当時の状

況などを学び、続く4つのセミナーでは、次世代への継承、島の現状や諸課題、日ロ共同経済活動の展望など様々な観点から北方四島について学んだ。

2日目、納沙布岬・望郷の岬公園において開催された「2017平和ノサップ集会」には、全国から1,072名の仲間が結集した。

主催者挨拶にたった連合神津里季生会長は、昨年12月

に安倍首相とロシアのプーチン大統領による首脳会談が開催され、北方領土での「日ロ共同経済活動」の協議開始が合意されたこと、9月7日にウラジオストクで行われた首脳会談で共同経済活動に向け観光など5項目の優先事業に合意したことについてふれ、「こうした新しいアプローチを北方四島や根室周辺地域の発展につなげ、四島返還と日ロ平和条約締結を実現させていく必要がある。どのような共同経済活動が相応しいものになるのか連合としても積極的に関わっていく。日本政府には日ロ共同経済活動を大きな一歩として、北方領土返還に向けた道筋を明らかにし、戦略的外交交渉を粘り強く行うことを求める」と述べた。また、首脳会談で「元島民の自由な往来を可能にするための案を検討する」ことで一致したことについて「元島民の方々がプーチン大統領に手紙を書き、72年間ひとときも忘れたことのない故郷へ戻りたい、自由に島に行きたいとの強い思いが通じたのだと思う。私たち連合も、元島民の方々が故郷に帰れる日まで粘り強く運動を展開していくことを改めて約束する」と決意を述べた。そして今後、取り組むべき課題として、次世代への継承や、より戦略的な観点に基づくビザなし交流が実施されるよう協議を進めること、北方四島にかつて日本人が住んで

いた証を後世に残す取り組みを挙げ、今後も運動を強化していくとした。

続いて、地元北海道を代表し挨拶にたった連合北海道出村良平会長は、「元島民の方も減り、平均年齢も82歳と高齢化してきている。一刻も早く北方領土の返還を実現しなければならない。交渉は政府が行っていくが、私たちにできることはその交渉を後押ししていく、世論を高めていくことだ。この近くで遠い島の現実、そして戦争の爪痕、未だに苦しんでいる方、思いを強く持っている方がたくさんいるということをぜひ伝えていただき、平和の大切さと合わせ、私たちの運動を作っていこう」と訴えた。

続いて、平和リレーが行われ、平和4行動スタートの地、沖縄ピースフラッグが受け渡された。最後に、地元釧根地協浅野泰敏会長が四島一括返還を願って力強い団結がらばろうで締めくくった。

連合北海道は、今後も北方四島の早期返還と、日ロ平和条約の締結による真の友好関係の構築に向け、職場・地域にいる仲間とともに北方領土返還運動に粘り強く取り組んでいく。

〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3207>



奨学金の返済計画の見直しをサポートします!

ろうきん奨学金借換

ローン

固定金利 (保証料込) **年0.70%~2.30%**

※適用される金利はお取引の状況に応じて異なります。

<p>基準金利</p> <p>固定金利タイプ 1.10%</p>	<p>保証料 ※金利に上乘せされます</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ろうきん会員の方: 年0.4% (北海道勤労者信用基金協会保証 日本労働者信用基金協会保証) ●一般勤労者の方: 500万円まで 年0.4% (北海道勤労者信用基金協会保証) 1,000万円まで 年1.2% (日本労働者信用基金協会保証) ※包し、500万円以内であっても日本労働者信用基金協会保証となる場合があります。 	<p>※借入には勤続年数・年収等の諸条件がございます。※審査の結果、ご希望に添えない場合がございます。予めご了承ください。※店頭に商品概要説明書をご用意しています。※店舗で返済額の試算を行なっています。※商品の詳しい内容については、ろうきん窓口へお問い合わせください。</p>
--	--	--

詳しくは(ろうきん)までお問い合わせください

北海道ろうきん
コールセンター

0120-5-109-26

ご利用時間/AM9:00~PM5:00(土・日・祝日、年末年始は休業します)
※この広告の内容は、2017年10月2日現在のもので、

「北海道ろうきん」は、道内で活動するNPO、ボランティア団体を応援しています。

2017年第20代高校生平和大使 帰国報告

高校生平和大使が今年もスイス・ジュネーブの国連欧州本部などを訪問し、全国から集まった署名を届けたほか、スピーチや街頭署名活動などを通して、核兵器廃絶と

世界平和の実現を訴えた。北海道からは、札幌日本大学高校2年の尾崎天音さんと、北海道室蘭栄高校1年の鈴木結理さんの2名が派遣され、このほど帰国報告を行った。



尾崎 天音さん
札幌日本大学高校(2年)

20代目の年は新しい試みの多い年であり、そして未開拓の地に大きな一歩をしっかりと踏みしめられたと確信しています。

「世界平和の実現に向かって」このテーマに対して私たちは「核兵器」の視点から活動を進めて来ましたが、国連を始め、その他いくつかの国際組織やNGO等で、核以外の国際問題にも触れられたことが私にとって収穫の一つであります。

実際に聞くことができたのは、アマニ・アブ・アワドさんの出身国パレスチナの占領下の実態でした。今回、年齢の近いアマニさんの思いを聞き、何事もない生活が当たり前ではない国や、同じ年代の同じ少女でも辛い思いをしている人は世界に多くいるということに気づかされました。

72年前のあの原爆の日も同じように、つらく悲しい思いをした17歳の少女はたくさんいたはずです。アマニさんらのように、実体験を胸が張り裂ける思いで誰かに伝えるのはどうしてか、受け取ったメッセージを私たちがどうしていくべきか、学ぶことができました。

国連欧州本部訪問の際アニア・カスベルセンさんの前でスピーチをした時も、世界各国の外交官や大使の方々との夕食会兼レセプションを行った時も、私の未熟な英語を相手に、目を見て聞きながら意見交換をしてくださったことに、何度も励まされ、同時に刺激をもらい、今後の意見交換の場における自信ができました。

帰国し、これから1年の「高校生平和大使」としての目指す姿、自分の中の目標は確実に大きなものへと成長していきます。自分の中にある熱い思いを北海道の多くの人に、特に学生に、直接渡して行きたいです。改めてたくさんのご支援に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



鈴木 結理さん
北海道室蘭栄高校(1年)

このスイス派遣で高校生平和大使にしかできない経験ができました。そのおかげで1週間という短い期間に私は大きく成長しました。

私はUNIグローバルユニオンでスピーチをしました。発表時、私に向いた大きな目と目が合い、「このスピーチ、思いは確かに届いている」ということを実感しました。発表後も職員の方に好評をいただき、気持ちのこもった発表ができました。

各国の外交官が多く集まるレセプションでは、イラクの方に「日本は核兵器禁止条約の会議に出席するべきだ」と、ドイツ、フランスの核保有国の方からは「核兵器廃絶はステップバイステップだ」と、各国の考えを聞き、日本の立場は今難しい立場にある事を身にしみて感じました。

トローゲン州立高校の学生と交流した時、ミリアムという女の子が私に話を掛けてくれました。彼女は広島で1945年に何があったかを知っていました。ただ長崎の事は知らず、長崎でも二度と繰り返してはいけないことがあったという事をお話ししました。彼女は私の言葉をよく理解して聞いてくれて、意見交換をすることができました。北海道でも被爆者のお話を聞く機会が少なく感じます。原爆が日本に落ちたことだけでなく、それで多くの人が誰も体験したことがない経験をしたことを北海道の人にも知ってほしいです。

スイス派遣で学び、感じたことを今この核兵器がある世界に訴え、次の世代へ、未来へ伝え続けなければならない使命が私にはあるはずで、平和ではない世界を望みません。地球上に住んでいる多くの人がそうでしょう。私は第20代高校生平和大使として核兵器廃絶と平和な世界の実現をこれからも訴え続けていきます。

今回このような貴重な経験を与えて下さったり、応援して下さい下さった多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



10月の主な動き

■最賃改定に伴う労働相談

2日(月)10:00~3日(火)/連合北海道

■会計監査

16日(月)13:30/連合北海道会議室

■第48回衆議院選挙公示日

10日(火)

■第48回衆議院選挙投開票日

22日(日)

イベントカレンダー

10月24日に予定しておりました「連合北海道第30回定期大会」は、延期となりました。

新しい日程は、**11月30日(木) 京王プラザホテル 札幌** となります。